



# 泉州広域母子医療センター設立後 2年半が経過して

市立貝塚病院  
院長 長松 正章

早いもので、このセンターがスタートして、あっという間に2年半が過ぎました。

センター設立の3つの目的、すなわち泉州から産婦人科の火を消さないこと、労働条件の改善、医療の質の向上は、多くの人の力を借りて達成しつつあります。

当初は、車で15分かかる少し長い廊下を隔てて、婦人科病棟と産科病棟が存在し、貝塚の患者さんも泉佐野の患者さんも同じ目線で診ると言うコンセプトでスタートしました。

しかしスタートしてみますと、同じ大学系列の病院でありながら、手術の方法や分娩の取り扱い方の違いなど、解決しなければならない点が多く、互いの意思疎通に時間を要した感がありました。

努力の甲斐あって2年半が経過した今では、ほとんどなくなってきました。双方の医師の方針がバラバラでは、他のスタッフが動かせません。何より治療を受けなければならない患者さんに、不利益が被ります。

このことは一番避けなければならないことだと、互いに協力を深めてきました。

特に二人当直制は図1のように大変好評で、今までのように何かあればオンコールの人間が病院にあたふたと駆けつけるという、危険な仕事環境をなくすことが出来ました。

設立の構想があったころから、個人的には労働条件の改善があっても果たして婦人科だけで病院経営に貢献出来るのかと大変不安でした。

体力的、精神的には昼、夜ない産科は想像以上に疲れる科ですが、収入としては大きな貢献が出来る部門でした。

ところがセンターが稼動し始めてから次第に、婦人科の手術患者さんが図2、図3のごとく増加傾向となってきました。

実績として婦人科単科だけでも収入増となり、病院に貢献出来るようになりました。

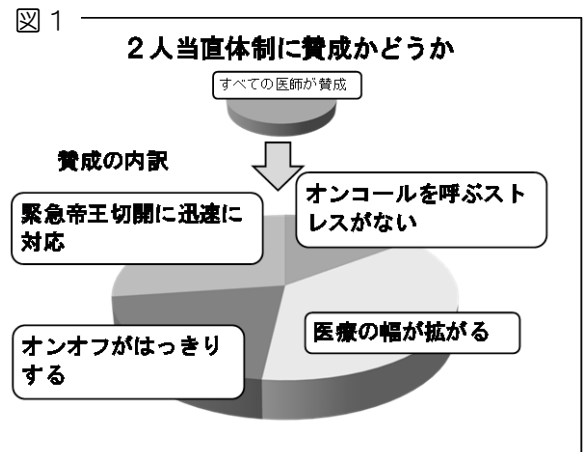


図2

## 年度別手術件数

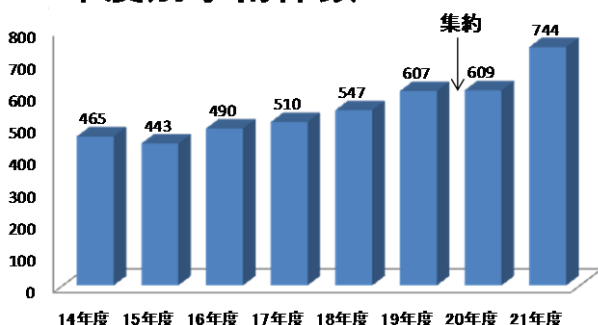
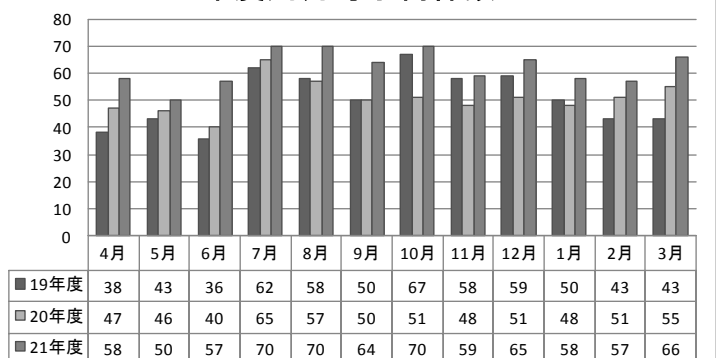


図3

## 年度別月毎手術件数



各地域からの紹介の症例も多くなって参りました。他の診療科の先生からも多数紹介いただけるようになり、認知度が高まったのかと大変嬉しく思っています。(図4)

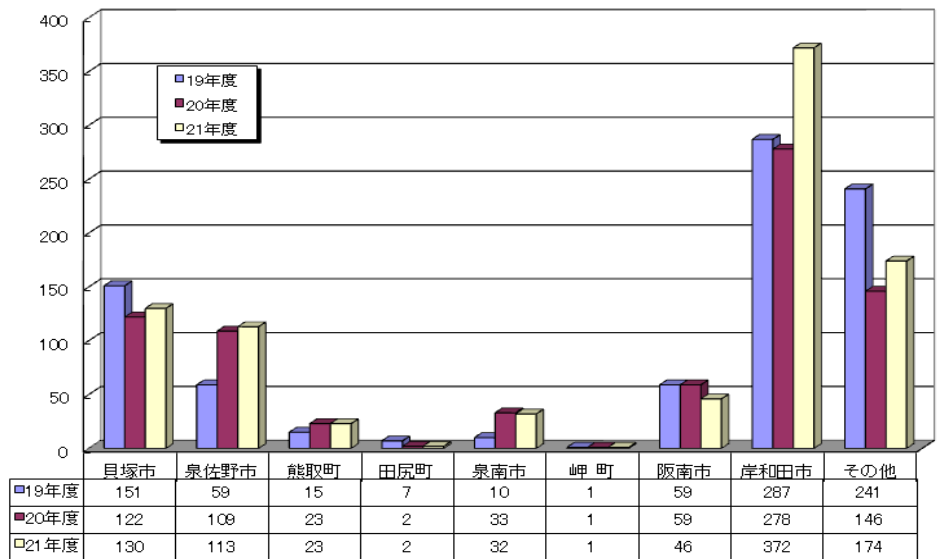
このご紹介患者数が増加したこともあってか、ここ2年半の大きな変化は、悪性疾患が増えてきたことです。集約前は8%でしたが、21年度は14%にまでにアップしました。(図5)

今後も地域の一般の婦人科疾患と共に、悪性疾患の治療により一層力点をおきたいと思っています。

市立貝塚病院の長期ビジョンの中に、癌治療に力を入れていくという方針があります。

図4

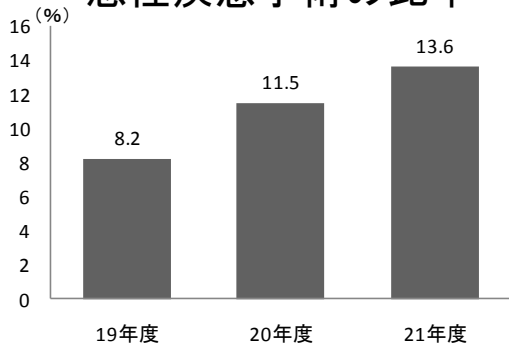
### 紹介患者件数調べ(年度・医療機関所在別)



※ 20・21年度は市立泉佐野病院からの紹介患者は含まず。(20年度 80件 21年度 129件)

図5

### 悪性疾患手術の比率



幸いにも、この11月からリニアックの更新の工事も始まり、来春にはより充実した放射線治療も開始出来るようになります。

婦人科スタッフ一同も、癌治療には大変力を入れて研究しており、手術技術の向上、化学療法への意欲的な取り組みをしております。そして何より癌治療成績の向上に向けて日々研鑽を積んでいます。

産科センターでは、分娩数の変化はみられませんが、重篤な合併症のある症例や救急搬送を数多く受け入れており、貝塚以南の地域産科医療を守るという目的は達成

されていると自負しています。もちろん大阪府下や他の府県からの搬送も受け入れております。

近くて、便利で、かつ安全な医療はなかなか存在しません。特に産科医療は突然の変化があり、一般の方が考える以上にリスクを伴います。これからはいかに安全な医療を、我々が市民の皆様提供していることに努めているかを啓蒙していく義務もあるのでないかと感じています。今まで以上に、地域の先生方と密接な連携が必要になってくるのではないかと思います。

昨年9月から、地域の先生方と一緒に勉強できる場を設けております。この9月25日に3回目の症例検討会が行われました。また当院で毎週行っている、症例検討会や抄読会にも参加していただけるようにご案内もさせていただいております。今後も従前にも増して、このセンターが地域の先生方や、市民の皆様信頼していただけるように努力してまいります。

センターに対しまして、忌憚のない御意見をいただければ幸いです。

病院の理念 飲の医療 和の医療 技の医療

# コラム 生きる

市立貝塚病院

総長 小川 道雄

## ＝ アイコンタクト ＝

### ◇目は口ほどにもの言う

国立病院機構・熊本医療センターの職員合同一泊研修会が阿蘇であり、招かれて参加した。

全体のテーマは「良質で安全な医療、健全経営と人材育成」。金曜日の夕方に病院を出発。初日は私が講師をつとめ、「医療者の責務－確認会話、守秘義務、接遇、患者満足度を中心に」を講演。翌土曜日には参加者が7班に分かれ、与えられたテーマについて討論。夕方、全体でまとめる、という内容だった。

最近はどここの病院にも投書箱やご意見箱が設置されている。内容で多いのは、設備、診察待ち時間の問題とともに、職員の接遇に関するもの。

必ず「つめたい感じ」「めんどくさそうに」「横を向いたままで」「他のことをしながら」などの文字が並ぶ。

病院も決して対応を怠っているわけではない。医療安全、医の倫理などとともに、定期的に接遇研修を行っている。

「医療はサービス業」としたのは平成7年の厚生白書。その結果、ホテルや航空会社の専門家を招いて接遇研修をした病院もある。

私の聞いた中には、笑顔の作り方、礼の時の上体の角度をはじめ、頭の上に本をおいて姿勢のよい歩き方を実習させる研修もあった。

私は、英語の「サービス」には「診療」という意味もあるが、医療は日本で言うサービス業ではない、というところからはじめる。医療では、それぞれ別のことを求める患者さんの存在を認め、何を求めているかを感じとり、それにふさわしい処遇をするのが接遇である。決してマニュアルでは解決できない。笑顔も必要だが、重いけが、進行したがん、危篤状態を気遣う家族には、ふさわしい応接といえない。

それよりも、真剣に聞いていることがわかるように「まず目を合わせる」「アイコンタクトをなさい」と続ける。

別のことをしながら対応しない、動作をしていたら必ず止める、顔だけでなく、体全体を向けるように。そしてできるだけうなずく、あいづちを打つことも。

弁解になるが、今の日本の医療制度は従事者の過重労働の上に成り立っている。重症患者の治療にあたる急性期病院の医療従事者は、超多忙である。だが丁寧に話す時間はなくても「アイコンタクト」ならできるはずだ。目を合わせて会話するだけでも、不安や葛藤が和らぐのではないか。

欧米人は親愛の情を示すために、相手の目をのぞき込むようにして話す。一方、私の世代の日本人は、じっと見つめる、目を合わせることは礼を失する、と教えられてきた。今の若い人もそうかもしれない。

そんな人には「せめて相手の顔に視線を向けなさい」と言う。顔から視線がはずされると、無視されたと感じるから。

「目は口ほどにもの言う」。これは他の職業でも同じだ。



# 開業医紹介コーナーのお知らせ

当院では、9月1日から逆紹介の促進を図るために、患者様に自由に閲覧して頂ける地域の医療施設ご紹介用のパンフレットを開業医紹介コーナー(1階会計カウンター横)に配置しております。

配置後、目新しさもあってパンフレットの売れ行きがよく、すぐに補充しないとイケない時もあります。

今回は、市内の医療機関のうちパンフレット配置を希望された医療機関からスタートしました。パンフレット配置を希望される市内・市外の医療機関は、地域医療連携室(☎ 072-438-5522)までお問い合わせください。今後とも病診連携の推進に鋭意努めてまいりますので、ご指導ご協力をお願い致します。

## 症例カンファレンスのお知らせ

各診療科で症例カンファレンスを定期的に行っています。紹介いただいた患者様やそれ以外の患者様の症例検討など行っております。一度参加してみませんか。

内科	月曜日(毎週)	16:00~17:00
外科	火曜日(毎週)	14:00~15:00
整形外科	水曜日(毎週)	17:00~18:00
小児科	木曜日(毎週)	8:00~9:00
産婦人科	火曜日(毎週)	17:00~18:00
泌尿器科	火曜日(毎週)	7:00~9:00
	木曜日(毎週)	17:00~18:30
貝塚乳腺フォーラム		
	金曜日(月1回)	18:00~21:00

※ カンファレンスへの参加・お問合せは、地域医療連携室(☎072-438-5522)までご連絡ください。



## 第22回 市立貝塚病院 市民公開講座



テーマ「気になる下痢・便秘・腹痛」  
腸の病気にならないために

と き 平成 22 年 11 月 18 日(木)  
午後 2 時 30 分~4 時  
ところ 市立貝塚病院 7 階講義室  
講 師 当院顧問(内科) 北野 厚生  
参加費 無料(定員 80 名)

### 地域医療連携室報告(紹介患者数報告)

ご紹介ありがとうございました!  
平成 22 年 7 月 521 人ご利用いただきました。  
平成 22 年 8 月 506 人ご利用いただきました。

平成 20 年度 月平均 442 人  
平成 21 年度 月々 472 人  
平成 22 年度 月々 522 人(4 月~8 月)

※ 左記報告は当院にご紹介いただいた件数です。

ご紹介いただきました患者様の件などで、お気づきの事がございましたらご指導ください。今後とも地域連携の推進にご協力よろしくお願いたします。



※ お問い合わせ 地域医療連携室  
☎ 072-438-5522